

学科 ライフスタイル	所感 自らの教育活動および教育ポリシーを言語化することで、頭の中で雑然と存在していた概念や事柄が整理され視覚化され、教育者としてのアイデンティティ形成につながった。
氏名 山口佐和子	

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

1 教育の責任

家政学部ライフスタイル学科の教員として2024年4月より1年間教鞭を振るってきた。2024年度はオムニバス科目を含めて合計11科目を担当した(添付資料1)。以下の一覧表のうち、「家族論」は、保育士、中学校教諭一種(家庭科)、高等学校教諭一種(家庭科)の資格と関連する。その他、就職委員、図書館委員、オープンキャンパス模擬授業(添付資料2)、オープンキャンパス大学相談、高校への出張講座(添付資料3)、学外(大府市)プロジェクト(添付資料4)、学生募集のための高校訪問、入試問題作成、入試面接、入試採点、3年生担任業務、学外講座(添付資料5)を行った。

科目名	学科	開講期	受講者数	備考
流行論	ライフスタイル	2年前期(2024)	14	
地域ブランド論	ライフスタイル	2年前期(2024)	34	
リサーチリテラシー	ライフスタイル	1年前期(2024)	39	
家族論	共通	3年前期(2024)	142	
ライフスタイル学基礎講座	ライフスタイル	1年前期(2024)	37	オムニバス
ライフスタイル学演習Ⅲ	ライフスタイル	2年前期(2024)	43	オムニバス
アウトリーチ	共通	1年通年(2024)	15	
卒業研究	ライフスタイル	4年通年(2024)	8	
社会学	共通	3年後期(2024)	92	
ジェンダー論	ライフスタイル	4年後期(2024)	8	
地域の暮らしと生産	ライフスタイル	1年後期(2024)	29	オムニバス

2 教育の理念と目的

自分にとっての教育の理念は、「信頼される教員による教育こそが有効である」・「学んだ知識に無駄はない」というものである。目的としては、「生きて行くうえで役立つ理論・知を獲得させる」・「学ぶことイコール楽しみであることを体得させる」・「生涯学び続ける意欲を育てる」である。これらの教育理念および目的意識は、多くの困難が存在する社会でサバイブできるフレキシブルな人間に育ててほしいという強い願いをバックグラウンドとしている。

3 教育方法

自分の教育方針として、①基礎知識を身に付けさせる、②教員との信頼醸成を図る、③学生が興味を持てる楽しい授業を展開する、④学問は深く社会と関連しており、実践的学問が多く存在することを理解させる、⑤社会人となったときに役立つデータリテラシーを身に付けさせる、⑥ピア学習の有効性を経験させ、コミュニケーション能力を高める、⑦教員が社会における礼儀やルールを示す、があげられる。

これら①～⑦の教育方針に沿う具体的な教育方法として、以下の事柄を実践している。

① 基礎知識を身に付けさせる。



- ・小テストを授業の最後に行う（添付資料 6）。
- ・授業の最後に質問時間を設ける。
- ・感想や質問を受講者カードの裏に書いてもらう。

② 教員との信頼醸成を図る。



- ・学生一人一人の良さを認める発言をする。
- ・学生の授業中の様子を観察しつつ授業を進める。
- ・授業内容に限らず幅広く相談にのる。

③ 学生が興味を持てる楽しい授業を展開する。



- ・適切な余談を取り入れる。
- ・資料を視覚的に見やすく美しくする（添付資料 7）。
- ・授業内容にかかわる音楽や映画を視聴させる（添付資料 8）。

④ 学問が現実社会と結びつくことを理解させる。



- ・現場で働く人をゲストスピーカーとして招く（添付資料 9）。
- ・授業に関連する時事ニュースを教材にする（添付資料 10）。
- ・授業内容にかかわる音楽や映画を視聴させる（添付資料 8）。

⑤ 社会人となったときに役立つデータリテラシーを身に付けさせる。



- ・国や国際機関のデータを多用する（添付資料 11）。

⑥ ピア学習の有効性を経験させ、コミュニケーション能力を高める。



- ・グループワークをする（添付資料 12）。

⑦ 教員が社会における礼儀やルールを示す。



- ・授業開始時刻と終了時刻を守る。
- ・授業シラバスを頻繁に見返し、修正が必要な場合は修正する。

4 授業改善の活動

授業評価アンケートを活用し、授業改善を行っている。自由記述欄に着目し、学生の的確な意見はすぐに取り入れるようにしている。さらに、毎回受講カードの裏に意見を書いてもらっており、その際、的確な意見があった場合は翌週にフィードバックし直ちに改善する。科目によっては、教員独自のアンケートを学生に実施し、授業改善に役立てている。また、評価の際のループリックは頻繁に見返し、より良いものを探求し続けている。

くわえて、生成 AI（notebook lm）を多用し、選択問題および論述問題を数多く作り、その中から適切な良い問題を選び、学生の学修理解度のチェックに役立てている。また、視点を変えた新たな教育スライド作成にも生成 AI を使用している。

5 学生の授業評価

2024 年度後期の授業評価は以下の通りであった（添付資料 13）。「ジェンダー論」においては、教員に関する設問の平均はおおよそ 4 点であった。本授業が「学生にとって総合的には有意義で満足であった」という割合は 7 割を超えた。「社会学」においては、教員に関する設問の平均は 4 点以上であった。とくに「教員の説明は明確でわかりや

すかった」と回答した学生はおよそ8割であった。「地域の暮らしと生産」では、教員に関する設問の平均は4点以上であった。とくに「学生の理解を確かめていた」は7割を超えた。しかしこれら全科目に共通するのは、学生自身の学修態度を振り返った設問の平均が4点を下回ったことである。学修態度に対する積極性を育み、またそれを学生自身が正しく認識できる工夫が必要である。「卒業研究」においては、教員に関する設問の平均はおよそ5点であり、学生自身の学修態度を振り返った設問の平均も4点を超え、良い結果となった。今後も努力を続け、学生のためになる授業を展開したい。

6 学生の学修成果

学修成果については、「ジェンダー論」において、独自に自由記述方式のアンケート調査を実施した。このアンケート結果から、以下の三点を学修成果としてあげることができる（添付資料14）。

① 学生は、専門用語、法律、法律制定の背景、ジェンダーに基づく暴力の実態、国際的に見た日本の立ち位置を理解した。

（例）・「専門用語を理解できた。」

- ・「人権にかかわるさまざまな法律を理解できた。」
- ・「海外における女性に対する暴力やFGMの実態を知った。」
- ・「日本が国際的にジェンダー平等後進国であることを知った。」
- ・「世の中の多くの問題がジェンダー問題とつながっていることを知った。」
- ・「DV問題について知ることができた。」
- ・「ジェンダー関連の法律は、過去の不平等な状況や深刻な事件から制定されたことがわかった。」

② 学生は、新たな視点を獲得し、それを根拠により良い社会作りに貢献する思考を得た。

（例）・「これまで見えてこなかった社会の格差や差別について考えるようになった。」

- ・「日常生活でのジェンダーバイアスに気が付き、改善するための行動を取れるようになった。」
- ・「多角的な思考で物事を捉えられるようになりたいと思うようになった。」
- ・「差別を感じた時には、場をわきまえつつも意見を言い、格差をなくしていく一役を担いたいと思うようになった。」
- ・「ジェンダーの問題は、自分と関係のない世界の話でなく、身近な問題であると認識できるようになった。」

③ 学生は、ジェンダー問題にかかわる注視すべき事柄を各々見つけることができた。

（例）・「DV被害者のサポートをしつつ、DVについて学びたい。」

- ・「ジェンダー平等を実現するための施策や取り組みを学び、実践していきたい。」
- ・「将来教育者を目指す者として、ジェンダー平等を促進する教育環境の整備について学びたい。」
- ・「適切な社会的配慮のもと、皆が生活しやすい政策はどのようなものか注目していきたい。」
- ・「セクシュアリティ診断を広めたい。」
- ・「夫婦別姓とその子どもの処遇について学んでいきたい。」
- ・「職場での賃金格差や昇進の機会の不平等といった職場でのジェンダー不平等を注視していきたい。」

7 授業科目に関連した教材開発

これまで授業科目のテキストとして以下の本（共著）を執筆した。

- ・『女性学入門－ジェンダーで社会と人生を考える』ミネルヴァ書房、2010年
- ・『子ども家庭のウェルビーイング』金方堂、2011年
- ・『教養としてのジェンダーと平和』法律文化社、2016年
- ・『女性学入門 改訂版－ジェンダーで社会と人生を考える』ミネルヴァ書房、2018年
- ・『教養としてのジェンダーと平和II』法律文化社、2022年

8 指導力向上のための取り組み

愛知学泉大学家政学部が主催するFD研修会に参加し、教育改善の方策のヒントとして、生成AIの活用方法を学んだ(添付資料15)。また、教育実践に関する研究論文を『名城大学教育年報』に2報これまで投稿した(添付資料16)。くわえて、広く教育指導に関する文献を読み、授業内容に関わる社会の情報もたえず収集し、指導力向上に努めている。

9 今後の目標

今後の目標は以下の三点にまとめることができる。

- ① 学生の信頼を得ることのできる教員になれるように日々自分を見つめ精進する。
ex. 学生の相談を記録する。授業評価アンケートを分析する。
- ② 人生を生き抜く力として必要な事柄を教える授業作りを心掛ける。
ex. 学生に独自のアンケートを実施する。授業案を見直す頻度を上げる。授業内容を興味・関心の持てるものにする。教育実践について日頃から文にまとめる。
- ③ 国内外問わず、有益な教育実践をさらに探し実践につなげる。
ex. 研究論文や本あるいはニュース記事・雑誌記事に、適切な教育実践報告がないか常日頃注視し、可能なものを見つけた場合は実践に移す。

10 添付資料

添付資料1「シラバス」、添付資料2「模擬授業資料」、添付資料3「高校出張講座資料」、添付資料4「大府市イベントチラシ」、添付資料5「学外講座資料」、添付資料6「〇×式小テスト」、添付資料7「授業資料1」、添付資料8「授業資料2」、添付資料9「ゲスト資料」、添付資料10「新聞記事」、添付資料11「授業資料3」、添付資料12「グループワークメモ」、添付資料13「授業評価アンケート結果」、添付資料14「ジェンダー論受講者アンケート」、添付資料15「研修会資料」、添付資料16「名城大学教育年報第15号、第18号」